

赤水図の教育活用 大学教授らが解説

27日、高萩で報告会

(2022.11.24.掲載)

高萩市出身で江戸時代の学者、長久保赤水（1717～1801年）による日本地図（赤水図）を使った地理教育の意義を解説する報告会が27日、同市高萩の市文化会館で開かれる。大学教授ら2人が講演する。主催する長久保赤水顕彰会は、市内外の教員やPTA関係者、一般市民の参加を募っている。

元東大教授の馬場章氏が、国内外で赤水図の所在を調査した結果について講演する。また、同市内の中学校で赤水図を使った実験的な授業に取り組んできた日本大経済学部の卜部勝彦教授が、子どもたちへの効果などを解説する。

報告会は午後1時から。入場無料。講演後には、赤水の功績を伝えるために同市が製作した映像作品の上映も行われる。【茨城新聞】